

妙の宮

泉鏡花作

全一章

夜に入れば人の來まじき處ぞ。妙の宮は、大川に
添ひて、名ある橋四つさかのぼり、麻畠を横ぎりて、
良に六町行きたる、山中の社なり。こゝを妙の宮と
思ふ時、うつくしき少年士官は、帽を脱して、心靜
に坂を上りぬ。

一昨日は誰、昨夜は彼、數へて五人まで、此の士
官の友の、心猛きが、皆來て、事なく歸りたるはあ
らざりし。

今夜ぞ、の月の夜なりける。

はじめ一町ばかりの間は、梢兩側より蔽ひ重り、
頭近く枝を組みて、黒白も分かず、搔探る手の數次
蜘蛛の圍を破り行きし。路やゝ廣くなりて、樹立左
右に遠ざかり、幹並び兩に分れて、谷に山に、果な
く底見えぬ茂となれる。目の下に一軒の藁屋ありて、
灯の影洩れず眠りたるに、ばちやノノと流の音して、
小さき水車、月夜におのづから廻りたり。

心から、露けき服の肩冷かなれば、行々肅然と襟を正しつ。

恚くて石階にのぞみたり。このあたり一面に、小さく白き草の花の、小流を蔽ひて咲いたるが、晝見れば紫なりとぞ。

月、山の端に高く懸りたれば、渠の影は長く後にさしたり。二百十六段の上といふに、宮は尚ほ其よりも奥深き處にあれば、みあぐる眉の上幾重にも、石階の重なりつゝ、鳥居の尖のみ少しく見えて、仄に白々とある道を士官は半ば昇りつ。

ふと月を仰ぎしが、心着きて胸を見て、

「あ！」と我知らず呟きぬ。

鎖ばかり帯にさがりて―― 掬られしならむ

―― 時計はあらざりき。

兩脇、懐、忙しく探り見たるが、

「馬鹿な。」

と言ひて腕を組みたり。

折から白き花の咲きたる草の、葉と、葉と流に揺らるゝなるべし、さ、さ、さ、といふ響せしが、時の間

に騒がしく、あたりのもの氣色ばみて、月の隈、動く
と見えし、幼兒の拳ばかり、其の大きさのもの、六
個七個、一つらに横に並びて、斜に石段を切つて過
ぎ、蜘蛛の子の散る如く、さら／＼とぞ走りたる。
士官は冷かに笑みたりき。

ほどなく石階をのぼり盡して、鳥居を潜れば、御
手洗あり。山清水の湧いたるが、頭を擡げて、徑一
尺の玉、浮いつ沈みつするが如し。

所せく月の光さして、柿の葉、杉の枝、恰も墨繪
のにじめる如く、濡れたる土に影をこぼしつ。士官
はざぶりと水を汲みて、手を洗ひながら眼を注げば、
御手洗の石のふちに、先刻に見たると、同一蟹の、
甲の赤きが二つまで、鉞をあげて身がまへ居つ。

其時する／＼と這ひ下りて、下の叢をぞ潜りたる。
唯見れば一條の蛇あり。つと杜前を横ぎりて、追は
れて遁ぐる状にて、杉の幹にのぼり行きし。その後
は、杜に到れる士官の身のみ、他に此の山中にあら
ゆるもの、葉ひとつ動くとも見えざりき。

全體の大破に歸して、古び且つ寂びたるに似ず、

新しき筵しきたる、狐格子の前に黙拜し果て、土官はおもむろに起ちて空を仰げり。月は大杉の梢を離れて、宮の眞下に、廻廊の朽目の見ゆるまで、あからさまに照したり。土官はまた帯のあたりを探りしが、心着きて、さて、笑うて止みつ。

廻廊を左にめぐりて、横に折れて出でむとして、驚きて一步退きたる、清き瞳のキと注ぐ。廂の下の薄暗きに、坊主天窓の兒の、未だ三歳にならずと見ゆるが、何もなくて唯一人はらばひつ。

両手に、光るもの一つ握りて、餘念なげに見つむる状なり。

土官は心剛なりき。

渠はつか／＼と寄添ひぬ。

をさなごは人見しりもせで、渠を見るより、なつかしげに身を起して這寄りつゝ、

「ば、ば、」

とばかり何をか言ふらむ。

夜深く静なれば、蟲の這ふ氣勢もす。土官が脈搏の激しくなる時、セコンドの刻む音、いと高く聞えたり。

さきに失^{うしな}ひし金時計^{きんどけい}は、此^このをさなごの手^てにあり
たりき。

ひとたびは身^みの毛^けよだちぬ。やゝ心^{こころ}の静^{しづ}まりたれ
ば、

「どれ。」

と時計^{とけい}に手^てをかけ、屹^{きつ}と其顔^{そのかほ}をみつむるに、兒^こは
おそれけむ、わつと泣^なきぬ。士官^{しくわん}は驚^{おどろ}きて耳^{みみ}を掩^{おほ}へ
り。

「何^{なに}もしやせん。堪^{かん}忍^{にん}しろ／＼。」

と其^{その}うなじを搔^か撫^いづれば、水晶^{すゐしやう}の如^{ごと}き目^めの冴^{さえ}々^{／＼}し
て、愛^{あい}らしき顔^{かほ}して莞^{にっこ}爾^らと笑^{わら}ひ、

「あ、あ、」

と掌^{たなそこ}なる時計^{とけい}を示^{しめ}しつ。よき手^て弄^{あそ}びをほこるなるべ
し。

少年^{せいねん}士官^{しくわん}は頷^{うなづ}きぬ。「むゝ、いゝものを。取^とつて
おけ／＼。」再^{ふた}び其頭^{そのかしら}をなでしが可^か愛^{あい}くなりて、お
のが膝^{ひざ}に抱^{いだ}かんむするに、誰^たが手^てぞ、幼^{をさなご}兒^{ひとり}の獨^{ひとり}這^はひ
て危^{あやう}き所^{ところ}に動^{うご}かざるやう、堅^{かた}く勾^か欄^{びらん}に結^{ゆは}へ置^あきたる、
燃^も立^{えた}つ如^{ごと}き緋^ひ縮^{ぢり}緬^{めん}の扱^し帯^きの見^みえき。

【完】